

### 体の中に侵入する細菌

同じ食細胞でもマクロファージより好中球にねらわれる細菌、真菌のたぐい。

### 好中球

血流にのって全身をパトロール中に情報を得て、細菌の処理をするところ。

### 赤血球

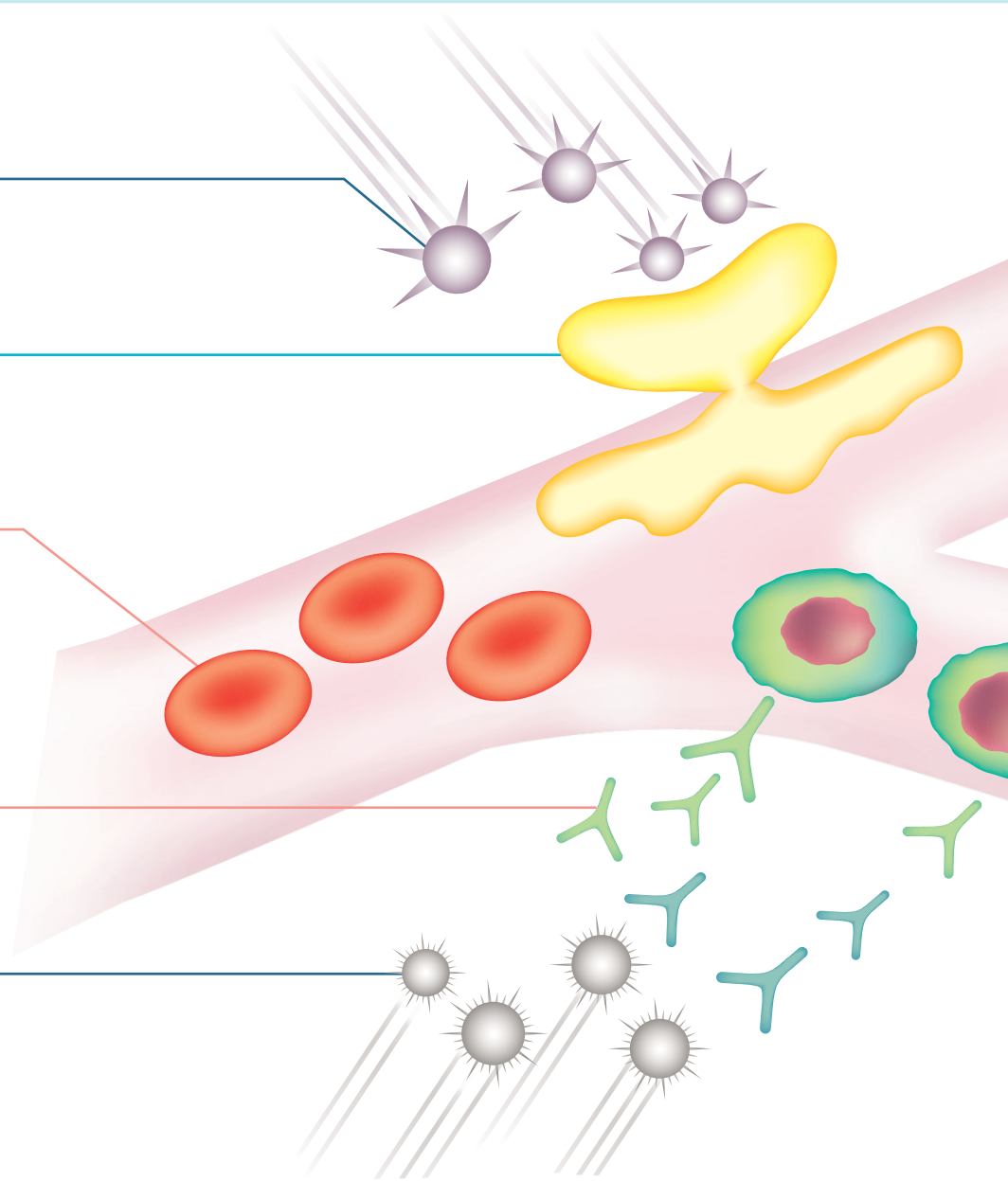
赤く見えるのはヘモグロビンという色素のため。酸素運搬という任務を遂行中。

### 抗体

抗体は攻める相手(抗原)が決まっている。抗原の数だけ抗体の種類がある。

### 体の中に侵入する病原体

ウイルスや細菌などの病原体が体の中に入り、抗原となる。抗体と結合すると障害性を消失し、免疫が得られる。



### 3 免疫反応

われ、病原体をつかまえるとそれを食べてしまい、体を感染から防ぎます。

ウイルスや細菌などの病原体は、呼吸器官や皮膚、粘膜の傷などから体内に侵入してきます。こうした侵入物に対して、免疫反応という特別の防御システムが働いて、病気の予防をします。その主役は白血球の一種であるリンパ球で、特にB細胞と呼ばれるものです。

リンパ球(B細胞)は病原体に接触するとたくさんの細胞に分裂し、抗体というたんぱく質をたくさんつくります。

この抗体は血漿中に出てきて、病原体にむすびつき、無害なものに変えてしまいます。このようにからだは自分の力で病気を防ぎ、かつうのかせなら二週間ぐらいで治ってしまいます。

### 4 出血を止める血小板

血液は血管の外に出ると固まる性質がありますが、これは血小板などの働きによるものです。けがをして出血した場合など、多量の出血を防いでくれます。血小板は骨髄内の大きな細胞の一部がはがれてきた小さなかけらです。